



浜街道を駆け抜ける参加者—檜葉町

復興の現状肌で感じる

浜街道ライドイベント



Supported by 福島日産自動車

福島復興サイクルロードレースシリーズ「浜街道」

道ライドイベント」は3日、Jウィレツジ(檜葉・広野町)を発着点に開かれた。参加者はサイクリングを通して、東日本大震災と東京電力福島第1原発事故からの復興の現状を肌で感じた。県内外から約70人が参加した。県道広野小高線(通称・浜街道)を經由し、富岡町を横断する40キロのコースを駆け抜けた。富岡町の東京電力廃炉資料館と檜葉町総合グラウンドにはエイドステーションが設けられた。

参加者は廃炉資料館で原発事故を語り継ぐ資料や映像を見学した。県サイクリング協会、福島民報社、みんぼうスポーツ・文化コミッションの主催、県サイクリング協会の主管、福島日産自動車の特別協賛。郡山中央交通、郡中トラベルの協賛。

「フクニチャージ」ジャージを着用

福島日産自動車社員

イベントに特別協賛した福島日産自動車は、同社の略称「フクニチ」とチャージを掛け合わせた「フクニチャージ」の文字を印字したオリジナルのジャージを作った。社員4人が着用し、イベントに参加した。



オリジナルのジャージでイベントに参加した福島日産自動車の社員